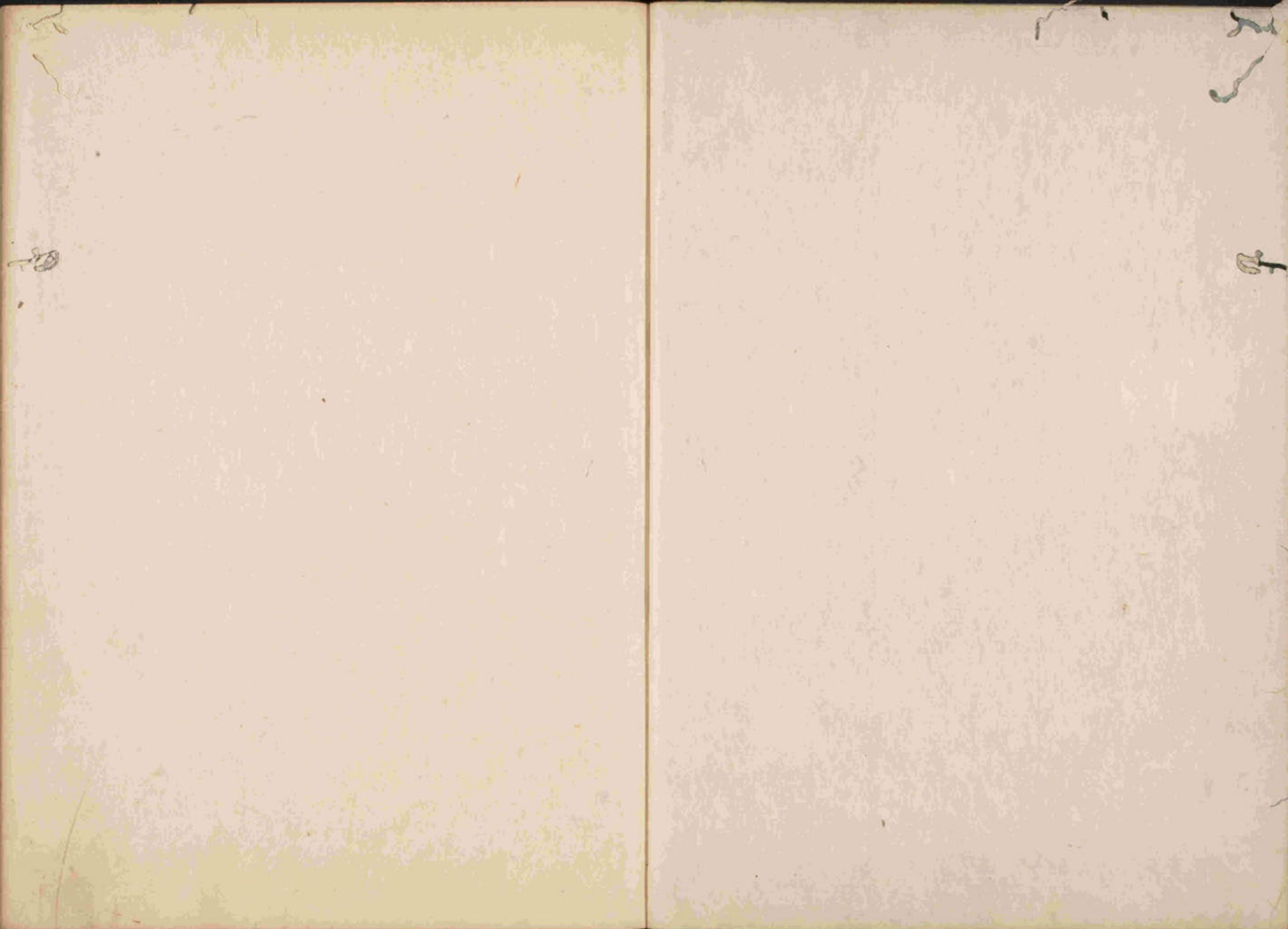
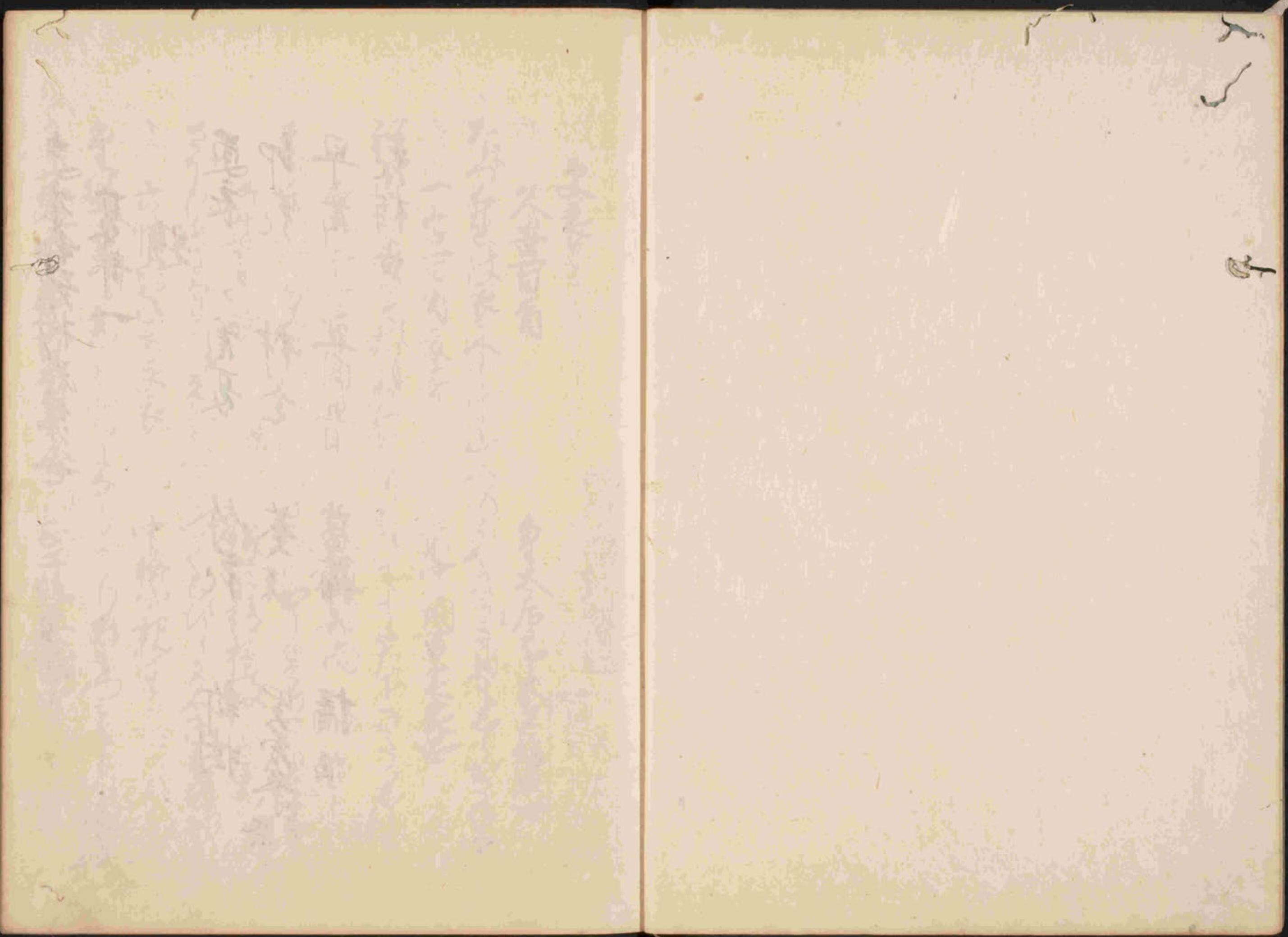


支本

七八
第一第二





木和新抄卷第七

夏部一

題

更衣

首夏

餘光

新樹

卯祀

神冬祭

葵菜

加多參祭

早苗

九月廿日

菖蒲

擣搗

紀村子

▲あくじふね

文衣

久安百首

久安百首
久安百首

一字百首

萬年納言家

行道百首

萬年納言家

西治三年百首

萬鎮和尚

召集文

後掌稿稿

三十九年百首

三十九年百首

六帖影卷文

中務御印

中務御印

建文五年百首合

正徳忠定公

忠定公

アマヤシヤの衣うつとからかひ神さまの鳥

六帖題文衣

信玄期

吉の衣をさし衣子生きてかへる

新う

寶治二年百着首衣

因

生てやまきのきのとて計の耳方を衣事

更衣

猪人不知

吉の衣をさしわどよりされまのとくのさしゆゑ

たの家百着文衣

後二住家降

猪印新法百着西

はな奈内

猪印

七丈足元とひれ下りてゆきをうりよひあまの川見

文應毛モ社百着

民歌て為家

三つわよとめり神うりふくらべわう蝶羽衣

モリ

神うりふくらべうの秋毛がくく衣ミハ
毛とおれ神のうふくらべうの秋毛がくく衣ミハ

貞惠三毛百着更衣

因

三つわよとめり神うりふくらべわう蝶羽衣

モリ

神うりふくらべうの秋毛がくく衣ミハ

毛とおれ神のうふくらべうの秋毛がくく衣ミハ

百着文衣

權僧正信

新嘉祥
毛もひく小あとすうあうくもくもくのじゆ

田舎文衣

尾付

毛もひく小あとすうあうくもくもくのじゆ

新嘉祥

○首夏

天慶五年亭子後屏風

貫之

花もともとがよきひしとよのよだすかみむけ
家集夏三中

母足

毛すこましにさかのうすよなまくのとく
夏居玉中

花院御製

瓦
物候春
天慶三年二月貫之あら合初夜

猪人

うとよはよめうとせれもあくよまくじ
家集育亥と

尾付区

ちりやまともくわくわくわくとくとく

久安百首

前大納言隆季

うとわくとくわくとくわくとくわくとく

前參議教長

もくすくまのこくわくわくわくとくとく

月一日

奏

水心

未識為相

もしえうううううううううううううううう

内

為實

魚さじきひしきひしきひしきひしきひしき

墨入角構改筆百首

民詠てる家

植衣わざと春と立ちて立てたれりよま

建保二年正月百首 市中酒言宣家

大井のかくの井せんあきと交うすと衣いと

老若立育五合

後事れ相改

きめまつすりわとひのあふてりはまのあけ

正治二年百首

同イ

松忠亭
春ちよは
ツルシキの
出がほら

方平
寛今藝能
都其昌毛

三毛死
おととみれかどり衣わきくとをもすうす

百首四奇首文

後九条内大臣

方平
寛今藝能
都其昌毛

建長八年百首五合文

後三位行家

○神さまがこのひでうしきときもとめく月舞

内

明誠
階底著故
大夏開源氏

隋板

家集首文

倭神よひもとあらみれのれひもあらみれ

寶治二年百首首文廿九首

一ノ

十五首番三合

寒首行

時もえきはがとひのれひさてとりひきは枝

任吉波十七字

建保二年

前半酒言宣家

最アの地よゑの後あひてくらひのまゝとすとせ

文治三毛首音

同イ

うふとすくとくすくまももももももももももも

建保元年首音

同イ

まろもも草盤の杜の風アト美のまきかどかとお

百人一首韻ニテ

同イ

うくさむい林よみとわすれの月をくわはねの

文治年中入内侍御音首音

同イ

あくわとすまももやねにいせじもめよめらも月

文治二毛首音

同イ

ほくはまうつひひくらひやあすよおひをくら

○餘元

百首序

順徳院序製

蟬の羽入うとくれ年ひとくそくとれまく
寶治二毛百毛首音後九条内大臣

まく

建永八毛百首二合夏序

同イ

近根もとよりもとみよせく川上うく雪のかきめ

家集山餘元

市氏部雅有之

れのれ春の夜とやうすれあうとよもじの葉

百首序

慈鎮和尚

田拔

喜翁じくせんれきよあそとま

喜翁

○新樹

古寫は新樹

古事記

後一条入通用白

ちつまほげろ花の古葉とてこしむれとすよ鳥

千五百番寺合

後二位家隆

後まももひわくみう山とも時すアサミの口

文集百首新葉涼み

前中納言定家

かすきに木と新葉と、日よけでさしむるの葉を

建長三年八月一ノ申 氏教定家

おけゆくものこそのあらじよナバウシタマシ

新種百首新樹

同イ

ちやくすく楓の枝まつませてさよとからくわくえ

六帖題

中納言定家

春けしてとさか葉くわくえとさわすゆすと瘦

百首五号

意林和尚

円波

ト、かくておなきよくお年同イそ、まとくあくら年同イそ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

六百首合新樹

同イ

あもれん新とよもれんえとよもれんの新とよもれ

内

は事務校改

中納言定家

同上

おもれんとよもれんとよもれんのよもれんとよも

内

寒蓮住師

同上

まよきせきのすへども、いよみちやとの手續

内

隆信内門

まけをわざ林すらすらとよきかまひの

家集まのうりあらはりのときまづて

内門内門

たよけにのよきこみよそにえとまづて

○印記

百萬古事

慈鎮和尚

あらわらと極め松よ雲よくわれうきよ月と見れ

たる年十肩三合

後高松模

里今うれれがよけよ月と見のしとそよ

建長元年百萬古事

後九条内侍

とよきこみよそにえとまづて

内

住二位行家

そちあてあたひすく乃衣てたぬあくは若のゆゑ

家集水邊ゆも

西行上人

立田のきすれゆどくにせひ井せきのたまよすむ

西行年百萬

前大納言是良

おきよみよすくのまよすくのまよすくのまよすく

文永之年中勞家歌とあむ合

住二位行家

龍岡川わうせりねれをえきよもよさうかみにまつ

筆

本
居
宣
室
金
成
院
修
平
山
房
修
平
山
房

弘安百首

赤大納言實事

たぬとせむの御もひしも黒もとくの月をせせ

正月ニモ有眉

三条入通た木下

あひきやまわせすときれいづれをきよ日をさへ

入安百首

元國た木下が木走

印地ももも學りとよはは博羅毛野の木走り

千五百番合

本門山内木下

神もも印月よきらの花に陽秋之原の木走り

内

法橋頭船

内衣草とえをもくの外れもけりあまの神

舟行津田百首印毛

叶納言國信

印毛やさりなうらんもくうのひやまもくうあ
内

後損船

印毛がわねひやまさうじてうらんもくまれよせ

檜傳毛永源

家集三百章角印 治足

月

檜傳毛永源とまよじとりとまよぐとて

さき原てこらふのとまよせとくの花のけり

延喜十五年二月章子行合

讀人之

印毛あけかみの毛くの花の草とあらわすを毛

家集夏序

太宰大貢高遠

筆

白鳥のわざせうやの恒神とみましまくけうむ

内 保付

やまうか情狀もじこ魚の言ふことわらう

天仁大嘗會事

有原氏家教

やまとくじとまむと見りてもうの花をきてお

家集

正彦教

ゆくよきよせんしめにほひうれ

和歌と

旅人不知

まことわせみのあことあらうるをもすよけうの

家集

鷹長明

やくやくひすまくわくわくがすまくれ

家集

素戔佐佐野

かく年も年もねのねねゆゆるもとゆくの

内

正彦教

ゆもきげうもともくはよすまくはくと

題不知

祐威法師

ちづのひだりよまくはくはくはくはく

家集

後村朝

うれのうのうりよまくはくはくはくはく

新元 故本元

御前ひらわもよまくはくはくはくはく

家集御前ひらわ

高麗

すみよまくはくはくはくはくはくはく

西序二毛百首

赤中納言隆房

元

公室席をきりぬまゆくみよしとせすよまま

同

三佐李經

重もよもよもとれどこれに月とみゆとてのと
家集或不屏内村上山附三合

萬感

あ、^{アシタキ}山古ミヤコ
か草印其共先カサヒキシキサシ
永就元も一条大納言や藤原秀鏡山

元浦

在東印里先ミヤコヒキシ
うれしのちわすけよすわせいかれ山をすくら

久安百首

前參藏教隆

松葉伏見マツバフジ
契教育ケイジョウ
通之於深澤ツキノミツツヅク
日月に山也ヒマツツヅク
伏見フジミ伏見フジミ
事モノ之ノも無反ムカシ今よ御承モウセイ
に國クニ也モと承ムる
候モウすま後留アフタリ翁シロの事モノも自ゼ身ヒメに付スルてシテ候スルる

望富

中院入道左大臣

家集カシト

後摺相ハタマタ

子難コナガ破房ハラフ
孤木ハラフ國コトハ
御承モウセイ之ノも無反ムカシ今モ御承モウセイ

六帖影ロウチエイ

衣笠内大臣

匂ヒの極ヨリ御モけうム也モとすまわらばたくよ

文治二年五社百首

東太后ヒタチノミコト文治二年後

久附水クニツシ也モとすまけきやまけけりとし行ム

祇園社百首

松下マツシタよかヨカともそやま人ヒトつまたよこせコセむ

古事記コトヒ内大臣家ヒタチノミコト会モウカ、

坐スルよ入スルおめオメもさむけサムケとモむけムケもモの

久安百肩

大於門大夫

印の氣のわきびつまよはまもとひの事

永久百肩を承取合

李通翊

みてども一人一歩きひやもひけ植林や白の里用

亥寄中

平經翊

木猪のさすく印ももう時ひまもあらむそとひる

六怙景ひよ印元

中猪のさに鶴金

正氣の月よやかをまつて候ト時ひまよけ印も

長治ニモ七月寄合

往人不記

印氣のさすく印もととば鶴の里よみゆも

思全入乃猪故百肩墨印元

思全入乃猪故百肩墨印元

民起為家

毛氣のさすく印もととようすけつ印も

天仁三月卯時家寄合

泥頭國翊

少もかけめすれまよ神てもと坐印も

氣猪也あ三月四右牙合衣室

有原定隆

少もつけめすれまよ神の坐印も

秀多院入通二月卦也あ五十肩

法鴻頭船

毛氣のさすく印もととようすけつ印も

來去八年百肩寄合

後九条内大臣

品藻雅書主之
かひりすけむ
すよせうづ
わねのぬく
かひり

木を絆のまちうるまねほりあすとぞさへつけむ
仰時あひす合印花押

経人不知

新夏
久きノ月のひとかめうるまかづなまけう印も
新元年百首印花記

民教庵家

ひまのかづれバ印も月あぬよしわせば
承久元年も有慶院合印也

新夏

朝日とすととのが御印よりせら布とみち手毛

百首三

宋公印

やものかづれとこれか日ひすとのこよまぬ白毫

た京大久頭彌

新元年正月

新夏

常盤丹入道太政大臣
新夏
大嘗會後經方所屏内大龜山

皇太后至天文後成

弘光首印

同イ

九社首印

同イ

暮見印

同イ

木のくはりせのひとをい印もさけうまの

木首高溪印も

草中納言宣家

木のくはりせのひとをい印もさけうまの

支那役入道二郎子家花十二首

同イ

さくまじき方軍よしとよまきとおもむきをまわる

右肩三ツ漢印も 徒三位家降

御元の唐子やえのまくはうきの吉のゆく房

右肩三ツ丹波印也

同

これもくじやまくのまくとも衣とひすさすをせてもし

山中大とよりく

左肩唐子

化古

朴道よそくしとどもゆかむけねむを

光臺院入通ニふれよが五十肩袖印也

左肩通宣家

あまとうものもまくとまくすすむちくせん印

右肩唐子

無鎮和尚

三輪大とゆとせれいにまくすすむちくせん印

左肩通宣家

怪三症頬政

左肩院入通ニふれよが五十肩袖印也

家長胡也

さよと心臓下りしきゆきてられてきよらむ

同

怪三症

家

まくじゆきゆきのゆきよが本高よゆすてけてさけ印

同

怪三症行脚也

も

あまうてあらむゆきよが本高よゆすてけてさけ印

家集寄御元惠

源仲也

さよやあらゆきよが本高よゆすてけてさけ印

五十肩袖印也

徒三位家降

二

三

四

神さきよみくわをもやあすよみよどりのひよ
うつゆ

春日社百肩印も 藤原隆祐納戸

印をあさりよりよへてこまづ川よなまそら

題不知 撲

挿人不知

神さの身とぞかの郭をよしとおのこそく
宿

承久元年八月魚藤合印記

家後胡戸

神山ノ隣ノ里よしむら清川てかく林立之
光臺院入通ニ取了家五十肩社印も

後三位保季

うづきうちよしやれいにゆせん

三佐之家

五

たりえまくよしよけ外、まぐらすまわるの身

内

法下幸徳

清也

身

よがくよもぐくのものまくよく葉衣川上

経葉は竹

五

印衣や玉うきもくくふくもくうがくうの川波

内

承安五年二月重家マサヒコ合塙根印記

良一は竹

六

竹子^{アシナガ}根拂^{ハラフ}たよあらわ^{ハラハラ}もよまく

百首は竹

慈鎮和尚

印毛

うれもあらあらと風やうう流しもよはせにむか

内

後三位家隆

内

あらとよねあくよきあらすりあらわく河の

吉原内大臣家十首合巻書

宋蓮ば序

伊勢守とひゆうてくわらへまつり玉川ノ里
承久ニ西宮寺首
前半御事定家

竹居院宇十七首

同

多門寺もまつをこむちとそく、せむらはるのち
弘長元年百首印正直も 民勤て爲家
さきくらこわとせかすとんくすすとくのち
山階入内太白山百首タヌ印正直も
三十六もあらまけすとまうすようえのけ
文應毛口せ社百首印正直も

同

うれしもまよくよ、あらのあやまつまわ
五郎同のひまくわのれくえよ、せとくわまくも
家五十首正直の替正直も 主其に後入通ニ取スニ

もむらのゆすてかひれゆく海浪もくがくかれも
私安元毛首

後九条内大臣

とくわ内院ともゆくもせく人やくうるのうのれ
承久元年十月毛首合印正直も

大藏院家

もそめよもとまくまくやくことかくまもひつさげくも

田家正直もどもすと

東大庄毛大丈傳正直も

少と田のうりとくよかげて毛五月もまのうのれ
弘安二年葛根官首正直も

安あはれ深

時一の事せせらむとされてもかへる言ふも

百首守ゆる続家

寐起は所

手をとつてゆきましゆきらすがよどゆまひ

文治守百首

草牛納吉宣家

あつてやもり植わとかきそよへうそよせの紀

百首守

同

山里うじも植林高見てよりひりすれもさり

天仁元年卯時てあとう合井も

有原敷隆

まちばらがまみけくおもひた^かをひくも

陰深去仰

内

枝とに半角まかくゆの毛とまよひ人よ毛

承久年百首守合井

性也通圓鬼の達

もとあがきとよきひすく人のよのねよとあひの元

建久八年百首守合

信亥朔日

つまやくともうまくまくわくまくり入てゆきまく

洞院橋東百首郭

薄壁の庭相

茅のいぢやよまくたくまくよもりの

常盤井入翁太政官

即ちあくまのう月をいそすまくと山にさ

建保三年四月百首顧郭云

子あす丘に
葉のち峯の入
さくら山の入
さくら山の入
さくら山の入
さくら山の入

後庭家

うれしあとまのうで郭にゆきまづまく
題セヨす 徒カニ人ヒトらす
うれしあとまのうでをもよかとあきやまカニ
きゆます

○神奈

貞二年百首

月影ツキノカタとくせんとくともあくたまきわきて神ミ

百首序シキ

衣笠内ウラハタナカト

神ミちくうすのうひくらすのうすのうすのう

六帖題

かね子カネコ内ウラハタナカ板バン

正三宿セイサンス起アガ

神ミちくうすのうき頃ハタハタ神ミちくうすのうすのうすのう

小侍役

衣笠内ウラハタナカト

さよ

信實シナシ序シキ

ちあすくう月ムツへうよあくきてき神ミのうとくまふ

六帖シキ神ミちく

棕櫚シロ比ヒ云ウ

うきこよがカニそあもくゆすひよすをすあすせう

家集シテ神ミ空スカ

月ムツ

ぬきこよきよきよはきてくまとけあわきこれ

外スルまくらきり

菴アメ

百首序シキ

順徳シンドク院エン製セイ

かわくもとまのとまのあひきぢよらく東ヒタチを

まくらもと通シテ模モ改ガ

四壁シテ也ハ

也ハ

支那は入る二年秋丁未年九月

佐二佐家譜

わたくかうこうのうじをうらしもひもよあひのせてもう
支那も入る模倣せよと

合

赤大納言資季

神吉あつゆすわざのかくをまきよせて我の
現

中原附支那

其のまかせのまのうとこくすまえあきもくすよそ
シモ

永万三年正月經成盛合

はく

赤

津集奏

中務院

うかじけたけのうやうとこがわやかうけさせじ

家集

貫之

金玉よりかへてちとすくはのこあきよあをすり

経信家集

六条大夫

うかじけたけのうやうとこがわやかうけさせじ

家集

吉

あすの宵幸のじときあまうとときのう

塔宿内百石

仲實朝

林のものあもとくつづくのこあきよかくつま

家集

周防内也

あくよけてもくちよみのとあきよかくつま
け手の後西附尾すまつてゆてわくま

とおとしよおとく

家集英大

平祐舉

かどやいきるトすまひますようてひせうがん

長久二年八月大吉ト大吉あひ合奏

源頼實

よそはけてよろんアヒあひそむれとめりよろ

久安百爵百爵衣冠衣冠左士左士家小太

うすす入日入日けのさよさよあてもすいくわいしくわ

韻字百首韻字百首蘆橘蘆橘勾守用勾守用露算露算桺相桺相新鹿

玉風巻

京中納言宣家

かわらかきのうをしきいくわいすすハあき

文治六年壬午入内屏風内屏風内内下五社下五社節急

羣林羣

三条入通三条入通た大臣

すよえむぢやもあひとがすえのじまとやハ井伊
寛長元寛長元入内屏風内屏風人人有樹隱

西齋西齋も入通入通大臣

りゆう日影日影よきだますだますわけとすわけとすうかく

同

医部医部て爲爲め

紳士紳士よきだますだますよひのう

円

あひくまあひくますけよだらうよだらうまちまちを詠詠まは

け云云玉う玉うとかけよよ事事ををもも

文應元年七社七社百爵百爵医部医部て爲爲家

かくよをかくよかうかうのううううよよあひととててあ

以て又五月をあくスとひくがのまでもある(今)キ
文永九月毎日雨音中

六帖題

四

行くもも山田のまうらむとすき月をもす
かねくわらひてゐる山田(今)四月をもす(弓引)

六帖題

信寶初

ちこちもみがのまうらむとすき月をもす(弓引)

○ 肴五月

天文八年年内の肴せすて山屏風等

貫之

うれきすうはるもくはややかす御とどり月をす
け

家集文五

東云住所

年

いとひよめにしうまやまと山つらうよ餅掌
家集五月五日と

絹織胡

あやぢもまほせいかくふ(今)年やがたのかとす
ふくま秋(もむぎ)

家集馬村

源仲

まきやとくわきわらわきまくすりうま

六帖題

衣笠内大臣

おきゆもまうてつひあやね餅(今)年
吉(今)五月五日と民教院家

ゑの住處さ月を南よまとすきとすきと

千五百番二合

青竹内大臣

すましよひとすよみあらわ餅とす

かをひきとらうこしまとくの事のあはれひ

多喜半抄川尾山

大納言跡

見新しゆすあひゆわみる御のそとまほ
建長八年百首今本傳中將忠基
いも山すれめにせきてこのじと

内

ありひくさかの内きねれれわまくもりえ
協行院附百首

佐野和也

よもよもよあら山うらとものまくもつも
山家有吉葵藏先駆

内付

たきしゆすもじよまくうちやまくまく

○賀美多

六盲番の合葬墓祭 後高祖構改

おみだらうううひよあひゆくとせじかまく

赤牛内言定家

風波

雲うとううひよあうひよ百けあひゆま

大藏有家

さよてよのたよとがくらつひよくまく

内

ひよともよまよまよまよまよまよまよま

内

良鎮和尚

内

佐佐家隆

内

あらそひの林の言ふをもてたとへよひをも叶

内 隆信相

あとひまくの門はうりしのひのよみを

内

東大納言義宗

是

あらひをうさはすともよひよひとわてぬまう

内

中納言大友家房

是

ゆきときせきてそのひのじめくわゆきしれ
た方やえあきまうりハ頗るあらかじめ
日事や判を云ひうなづひみくわくすよ
ゆきやれどもへあらこさむほまくまうの
ゆの事よゆきへ内時よせへとこそ

承入年百首が其音意

源昌

まぐみうてかうあきくしきのよとくちう

内

信賴相

敬木

ひきつきようりきよきくわくよきくわく

社

立身

先かぬ

六帖題

立身

先かぬ

わざわざとよよきしきをころん

使

信實相

内

わざわざよよきしきをころん

内

曾一首中望葉

民詠て為家

をもてそひあまくとおろしもとものいだい

かのまうすのすの日三あきひくとて

中元

順

家集

よきひじしもあきよつとてめぐらとすもまくまく

ひるが

さへ吉

ヨニコロカタハ

家集

西行上人

すよとあきもよひくすむかすすくまくまく

承久八年百首契文卷

仲宣歌

あくまのゆのとくに人をよのあせよあせよ

早苗

文治六年九月白鳥子苗

白鳥店喜大夕後風

司馬文正公
已出

中元
伏見津宮也同
むわやまうきのぶらむりむりま
脚をくわいひよひよひよひよひよ
さかうといわきよおほづくよおほづく

佐若祐光

早苗

佐二佐家隆

もよもよもよもよもよもよもよもよ

而以上人

かきよとよよよよよよよよよよよ

佐若祐光

慈鎮和尚

ひらひらとけのよよよよよよよよよよ

元年十一

承久二年和也五十首早苗

苗

草納吉宣家

うそとそらのさへ里とばこのまわすむ

文治五年百肩早苗

四

後まきしののよともひよもひうたの年もも
墨尾入通教監百肩採早苗

民部の家

小山田よせはまもと年ひつせのこゑもをも
あえさ年よすれに家續千肩子苗

未議乃指

ねぞとさかくともじゆのよの力をひよみりそ
中村で朝に家を合早苗

精傳医工

日とくくらとくにさうしてあひのよまの

永承六年十月歎上根合早苗

或ち大物周成

ことと絶のと風のふよせもしてそくよくもひの

家百肩早苗

民部の家

四

のまはやスノホモトニヤモウハシムのま

千肩早苗

やまとう山田すこえあるもひとス月あわせま

文意えもせれ百肩

四

肯やまととて水せきみてすらとひもひのう

百肩早

四

りまのかくおのさうおとて生のじもも合早苗

四

文永二年正月一首中 同

山因の生とあさきわせりてくすと首とふる

より一首中

同

又月をかどやこよを山因のキニシテモ元
主よ同トナヘ計ニシテルヨリシテモトマセ
タニシテマハカムカムタマキアラムソトモトマセ

文永十一年正月一首中

同

セキ川の水を殺すうきとつま水をたらひのくら

家集

隆信朝

毛同あふまむと今しもきてとくづるやくわづの

月

後二位行家

まつうあたはくまくわかのあこうすまよまよ

老五十五首合

吉陽門院越前

くわくわくちまくわくわくよひくわくわくわく
柿本新作百首

鷹司院師

黒人之のやまくわくわくわくわくわくわく
寶作二百首早苗 常磐作八角太政大臣
あくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

文久八年正月百首合早苗

後院大支頭季之

くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
建安八百首合

后三位忠

あくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
あくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

月

後三位行家

身あれどもさちもわくとせよめにえいせり

六帖

三宿家

内 わきひきのむすみをさき日ひはとくやまのうち
寛元年十種師^{トシノシテ}会社色早苗
あわじにきこのんとヒトテモのうるよし

内

信玄教

やすらのとみのまづくこのつまよやまともとゆ
内 ほり奈良太^{ハラタ}家太^{ハラタ}建保三年和^{ハグ}不^ム合^{ハズ}早苗

後三位院家

まちのまちにせん寝ふるひをまことせん

寶治二年百首

支後報

風きどく石田のよのねを走りにまくさきの弓
入通中榜^{トシノシテ}村正^{ムラマサ}合^{ハグ}下定

駒^{コウ}

中^{ミハシ}合^{ハシ}かとせきのせきて神^{クモロ}うるまく前

建永八年百首

末室内太^{ハラタ}

風すまくとくさすうづくめてのまくまく

長元五年大嘗^{タカミ}之^ノ屏风^{カニ}内^{ナカ}中^チ因

贈參議義忠

身とくおもてとくもとくさろやまよきこわらす

家集

人丸

あすわひあるとまゆれきてまきの身をもる

三百辛角中

母足

スアキカクカミミトノアシマツテマモトナガミモル

五十五

家集

通信教

モモタウ神ムサセトワユスカヒルヨリモ舞祭也

早苗三节

仲宣歌

モケモニモアヒルコナラシモ麻煩青井木ノ鶴

家集

後柳胡

モキツラシモアヒルセカヒトモカヤマシモセラ

博阿院内百角

ウスエトハ鉢空ラウストヨヌリカナレモ

モモタウモキモタモタモタモタモタモタモタモ

内

時郎大支頭まつ

ツカモラミモセガツ内昇よひまくせてたうてまくもる

内

隆深

リモソラムオキモキモキモキモキモキモキモキモ

頭まつ家章早苗

ウスエトハ鉢空ラウストヨヌリカナレモ

モモタウモキモタモタモタモタモタモタモタモタモ

内

枝人不

モモタウモキモタモタモタモタモタモタモタモタモ

久安百角

宣傳歌

モモタウモキモタモタモタモタモタモタモタモタモ

支毫毛入通ニ取就す五十首早苗文

參詮雅經

モモタウモキモタモタモタモタモタモタモタモタモ

延長八年正月早合 玄後御内

山田のまつたつももりとまつて時事書
あえても十月鳥居百首

怪二怪丸年

三事あらじるをとおそれよしきかくとせを

西原二年百首

玄印門内太白

山田のまつたつももりとまつて時事書
永元年正月鳥居百首

大義の抄家

よしわがわがともめうきうわきうきれも
内

たますま頭痛

せよくの因ゆきよしおけものとよこして

七年正月玄印門内太白等合

重成御内

やまとくとけさくまのまつがさうくともうまわ

家集五

恵慶は所

わきよくとくとくもんとまつてまつてまつて
家集五段ア首

源仲

まつらのまつらまつらまつらまつらまつら
常盤百首

日

家集早苗

源朝之

まつらとまつらまつらまつらまつらまつら
博院古附百首

あ牛納吉庄房

アホとうねつはりすこひのまくらとひのまくら

寶治ニモ百首早苗 正三位家

手もとをこのひたてうけめどよもうま

内

衣生肉火

アホではまのまかのうとあるとありますとお

詩集早苗

後醍醐院

アホよとあさるひまくとくとやうすきれ
文治元年六月入内屏风早苗へうふ

後醍醐院通用内

ほほえちだ火

アホひまくひまくうそいともあきのまつと

内

正三位家

アホひまくひまくのまくらあづまくはま

内

隆信朝

アホひまくひまくのまくらあづまくはま
祇園社首早苗 正三位家

寛政元年六月入内屏风正三位家

怪二位火

アホひまくひまくのまくらあづまくはま

内

民部家

えけ

アホひまくひまくのまくらあづまくはま
嘉禄元年十月正三位家

万壽ニモ五月五日義忠郎ト家合合若叶

菖蒲

狹人不知

翁ナミシテモひもあまむとをさす年りと年
け焉判考九節入菖蒲の生うる所の内のみ
の上より年ごとに今日本もすりて菖蒲の根とく
すりとすきにその水めうらとみてもしす
たのうすくもとせとくうらもとあまくま
あまくけとくうのもしゆらもとあまくま
じりうりとく

因累合蘭草菖蓬

蓬草

内

もくつよむとをうらんすあおひじてもじととのく
ものうしよすくらにぬえとをすきよきくめがま

判考の内す方曉にすわとよとまそと
すもじくすくうとじくとうてをきくじりてく
すももけとたもそれともうりけとあ
らん野のぬかくはあらぬくわけてけせば
ねくやくくとく

康和二年四月付義忠郎ト家合

菖蒲院中主上緑

有度玄感

もくとくよむとをうらすあはくとまのまくま
内
は焉判考仲夏御月を承すがまくらひく
のゆくへうるわほてよまけとあらうのあ

日はあくまでよきひてすれどもどの風
まろそりと戸はあたたかむとく
すりとすくとくとく

菖蒲

歌す

中納言家和

五八
うきよきてときよとあやまつたまよく身をも
内

純宣相

はやのとくわきよもやまと詠ふひきて身をも
こゑすいはるよもちくあ屏風のちくに
さしゆと舟よほりてぬと人のうすを

家集菖蒲と

大納言經信

津水よおせむひよめん草もよそとすよしむ

家集

後村湖

乃すすりうられぬよねじけおやぢの聲も
えまがくらのすまきもやまと詠ふはるよ

禱す内ねす家と合七月菖蒲

毛利

毛あくすのめやめやとと到得よきてしきもむ
家集めだけい

毛利

もよつてはやけりのめやめひきくすすき葉の
大賞會主基方菖蒲

前中納言主房

あやめ草すれむ若木庵あらみあきらめのそと

家集菖蒲

四

水きよしにせうるもせうすまもててもあめく

内

基後

肯ひく改えよすもせまつまの身とくわまく

老矣五十肩玉合

後高枕枕改

すくはよ神のあさとがくきてれも身もしづく

津集菖蒲と

法性も入通用内

毛ほり左ひもとくよすれひくらむもしとよはん

久安百肩

李通胡内

りすもかとのゆきの肩すはあめりとすすみ

上高尾筆集

承久三年家百肩院

席序納言定家

色ももよきがねあわせあすまきとあわおどれ

辛立韻工つ圓扇贈月織

玉乃のひきよもさきともくよまくすもせの林か

家集

後賴朝内

あめうわくはまよ角をせんかく神のひきよ

ひやくまえあわくのあすりし今すがのあや

中榜文教子家玉合

桔傳正翁

いくよえあわくのあすりし今すがのあや

家集さうじとみて人のわづつうきうをす

現存

今本

一

おもひへ人よやまひせばよめうき
貞惠三年百菖蒲

つまへゆるよまの生や草_{民歌}五月あよび人

五社菖蒲

東太后主大女後

まくはりよまの生や草_{民歌}五月あよび人
耶波_{金子}今まもあやあやせや_同ひあとほきせすみ_同れ
さくまやま月_同ひあとせき_同かづもあとくまう

大葦舍_{民歌}方_同屏風

さくはの池_同あわとくわて_同もせの下_同よきく

宝集十角_同中_同菖蒲

後鳥羽院御製

家来惠_同市_同恒二位家降_同

三生人_同也_同池_同あとまゆくとゆしもたまう

文和六年菖蒲屏風

後法事寺大寺

おもひへ人よやまひせばよめうき
寄菖蒲

參議名相

おもひへ人よやまひせばよめうき
貞惠三年百菖蒲

民歌_同家

おもひへくのせあやまひせばよめうき
家集

支後胡_同

葛蒲へよからむやまとさきよじひき

三月の續古今の様者よくうりゆうじろ

絶筆中書もはるかよ葛蒲とありとぞ

家集写中葛蒲

源仲

あああひくともいゆうらてよそのとよこ

佐古秋三十首

後二位宋隆

すのよもほすすすすすすすすすすすす

百首

慈鎮和尚

どものえのえのあかかてもじがれの寺_寺わわとす

うきいきわせわせうめとすのまよそももく

月

あり上人

まちやまきもやまとくめやくめをく

月

是等家集云かくえは中にはとやふよ葛蒲
わきうそせゆけうよ様のよしわちらけうよ
つくれうてよおれしき

西詠二十首

正三位李贊

ちくわうわくわまのあくまいくの葉のあまくまく
文惠元年七月有首 民詠て有家
もくわうわくわまのあくまといくまといくま
八月きてるわくらのあくまふくわくわくわく
建保二年七月有首

順徳院御製

に頃核

すのよもほすすすすすすすすすすすす

月

後二位宋隆

いき

五月五日ひのねまのあめこよひとみかひ

内

後三佐家

上月あらわのあまのあめから今まよこすとし

貞庭ニもあむ百首名不萬葉

民歌ともよせ

あやふわきわあよき

六帖影

信重朝北

豊臣秀吉もあれがまきてはとくをゆるま

家集ほ小面

前中納言家

もよつともじとおのあやまくはれまやしと

毎日一首中萬葉と民歌であるも

うあれださうものあやまくじとゆひく

百首

ちやうてさくはまきよとのもたんじゆよもあ

内

衣笠内大臣

まくはまくはまくはまくはまくはまくはまく

。稿

題不知

中納言家

わくのわくのわくのわくのわくのわくのわくの

建保四年五月

後二佐家

極くの極くの極くの極くの極くの極くの

野郭ひよすと

後二佐行あが

うとくさくまきけとやかまくわくのとくとく

万葉集

三十六四

三十六四

三十六四

さうあら

家集卷之三

四

是す

移人もい

キモヒモのもしりのうとアリとかきこつを日見
かみあけアリ天アマわとのせよ橋アシよも猪アシ

月

橋アシけぬじそれやまにわともすよめ見

月

藤原東湖トウブ

一枝

吉野ヨシノにすきよしとすようたまうへ

長哥

毛のねアシやそのまのアシ

中納言家物カニガミ

毛度アシすよあすくらさん

うとくアシむもうとくアシ

題

人磨

月アシキモヒモのもと神アシ天アマもみよねひかく

月アシ

古部廣方コブヒロミツ

五郎ゴロウかく

被アシもすくせひきアシとひとよもよ

侍賢アシハシに安藝アシヒ

元

月アシくもよもよく月アシまよ

平社舉アシハシ

人

月アシやまよもよくらもひゆきてめそとよけゆの里アシ

家集早苗

早

假富門院人輔アシヒロミツ

人

月アシやまとよもよくらもひゆきてめそとよけゆの里アシ

百萬寺

假富門院人輔アシヒロミツ

月アシやまとよもよくらもひゆきてめそとよけゆの里アシ

般若大師アシハツ

人

月アシやまとよもよくらもひゆきてめそとよけゆの里アシ

金剛

人

あらもくもももらもくもくとまほよぢな大寺と
殷富の院人よませけり奇

精中切言長方

もしもももてくえよわくまかくもくしむも
百首以等盧橘子佐山家重
萬能和尚
もととてしきとも神をもとまひすうわ
原元三年夏月一首

田舎の家

かくさくはれをばくわくちもみくもくよ
百首奇用板物語 え後朝是 橋小舟 きくのいわゆるをもくらべてた

古帖題

新

信寶網七 新

かくのとくらめのえくすりよがまおもひひ
西院内百首板 貫仲網七

内

信寶網七

たちもくのまどとのよからうともよまとくも

百首

支後網七

かくときかくはえくわくすとれくもいまやう
小野桂百首等はな 网に 网に 网に 网に 网に 网に

ゆめもよもをもくもくらもくのこもくの神毛

五集文書中

衣笠内太ル 古ル

百首やわくわくらもくらもくのよまき

一
一
一

百首古事記

十五首書奇合

東大納言忠良

まちのしりょうう神よまくすのあをもゆけり
日新後撰真まきにあめまくがくじとひともすきり

ひ集

押出内大臣

十題百首古事記

後高麗橋政

ゆきよわ神のやせにきてつゝとひのらか
あえ年百首古事記盧橘無心院南

たかみれもととのよわきもあゆまの間
百首

後高麗橋政

狩ちれいともやまくにわゆのとすとれ
千五百首古事記

後一佐家隆

射弓も月ひわよわよ、射被よ松月よゆく
五百部ことよすと

而り上人

あもあく射よじよろたらもよまくしとく
またもほ入道二品親王家五十首盧橘

如願法師

ゆきよわすもあゆまのとんれよすもあ
文意えむ七百首田教爲家

し
禱申
也同もハまサれシのトすカまスけシをシらマ橋ハまスるカと
禱申也同もハまサれシのトすカまスけシをシらマ橋ハまスるカと
神同まハいシさトくマまスきトもハのトけシまハらマよシるカと
うトまシひシいシたマもハすシんマをシせシにシらマうシるカと
百同肩シさシ石シ不シ友シ
吹申風シすシあシのシやシもシぬシくシよシりシまシも
寛元三年結縁經百肩シ

日朝家

かハむシよシのシ里シのシとシてシれシらマとシのシ神シのシすシ

達保三シ家シ百シ肩シ佛シ五シ枚シ

八道橋改申定シ是シ事シ後シ

禱申也シとシれシ人シもシとシ草シ生シれシとシ

内シ

太シ老シ有シ家シ

千五百シ肩シ合シ

同シ

もシくシてシあシはシすシせシがシらマとシれシはシもシのシ神シとシあシうシ度シのシもシ

中シ禱シ也シ家シ工シ合シ

大シ老シ降シ也シ

もシひシとシもシあシ下シもシかシさシもシすシはシまシよシくシれシ能シ

百シ肩シ佛シ寺シ

度シ模シ和シ尚シ

わシうシるシじシきシくシくシをシとシれシらマとシあシのシよシ

或シ人シのシ家シとシらマとシさシへシれシとシてシ

大寧大貳高シ

被シうシりシてシろシてシまシりシあシりシらマすシりシめシばシうシ

家集

是

あすみえまつりせりとまきらもとを写
脩^保子内教^主あす合^元板

小竹板

なづすさわらか吹ふたしの雪舟のりゆよ
あ保三年七月家寄合^元板

移入

りよけてますしれは風^同付^ハらまくろうせよ
タキはだらとめうら御^同もくとそとく

天仁三年八月卯時^ト家寄合^元板

付^ハ入

ひよしやかのうとうとくとくとくとくとくとく

移^ハ内教^主合^元板

襷皮

ああくれらもどうとまくまくにけりふ

百首^同里^主盧^橋

隆祐胡^同

まいやうしきもくまきそらかくまくまくまく

文治^主年五社^同百首^板

東大石^主大文後^主

前^同をもよほをよみかをよのりよよもられ
どもの^同よれりもよもよひわねよしよひわね

六肺^題木^主板

衣笠^主内^下

いはまはおへらもかのうとまようとく^主板

信寶^主朝^下

わき六
あふくいよあひ板乃そのうらかくすまゆて

つ古、秋ち

花村子

百育詩可中夏

裏鎮和雫

あいはせよもんとつきてまわらわお

されづ（那）

の四三一
長一

支未和致林卷第八

夏詣二

題

郭云

七月雨

熙射

麦

牡丹

樗棟

百合

鴉河

水鶴

葦

交杵樂

夏雜

郭云

家集

大納言經信

主の御事の御とよ郭云をうきすやとく

竹内郭云

北面同人

萬葉種之竹子もおまかで萬葉のねじ鷗鵝水

天仁三年八月師時アマニ人合郭云

後賴朝

アマニ人合のわれこひど稀もくとよま
千百萬人合

醍醐入道元太政大臣

牡丹とくよしもよき事わがれとくもく

正治二年八月

大納言忠良

五月人合の月のむじわが神主とくの鳥

志郎

千五百首寄合 家長新作

家作不以てうむの意徳よりあらつてのをもすくす

月

正三位季経

郭云かひしきいゆのれりがまゆくうと萬葉

改集郭云亨

而日上人

寫のよととくわくとくまほりもに歌はせ

正三位首

宋蓮法師

うみひとのよとよつも郭云かひまきをよひと

達たをとおとおと九十九首工合

無能和尚

ゑみかきれれきれきをとて寫まよ鷗聲來
同

か

さしもひやせきせひのれ

か

のれ

正治二年百首

或の内歌

ゆふゆふゆゆすやすゆくゆのれけの思ひゆ

逸布年

家集

和

さしもひとゆとゆとゆとみてとくとくとく

西治五年三鴻社十首工合

侍郭云

前中納言為意

せうしもひもあおきよくさくさくさくさくさく

後惠法師

相

郭云もひもひまたうすまきくまきくまきくまきく

文子中

正三位經

相

うときとゆうときうふくとゆくゆくゆくゆくゆく

足不知

尾雅重新作

高

休院

正治五

高

高

郭云もひもひまたうすまきくまきくまきくまきく

うときとゆうときうふくとゆくゆくゆくゆくゆく

高

高

う義抄
うきひうりてんとくふ月とおのれにすましをあ

文集

赤人

万
かくともあれ山か日出かきらうのとよゆめをき
文集

野不知

万

中納言家也

万赤人

かのれのまきさかひらとさすもじ山（おきわらとさすもじやま）

万

讀人不知

万

おもかげのとくにわざとくとうてやりひよつを

万

蟲磨

三毛三毛

万

ほくそゆきせの事とひこよのまうす

万

御院榜故あく百肩郭（ごいんぼうごあくひゃくせんくわく）

万

ほくもすあとやうに郭（くわく）えたらぬの多よもん

後嵯峨内侍

万

ほくもすあとやうに郭（くわく）えたらぬの多よもん

後嵯峨内侍

万

文治三年用居百肩 前中納言宣家

前中納言宣家

あちねの月すかうが

万

國郭（くわく）とひよと

万

え毛（えの）は入通二京の

万

えもとむとめにわひととめよがきまく穴の立

万

あえ三年百肩郭（ひゃくせんくわく）

万

きくもすかうるのひよとえれあくわづわ郭（くわく）

万

貞惠三年あく百肩遠郭（とおんくわく）

万

民部（みんぶ）文集

万

誰里よすかうらしと郭（くわく）えのすまう重（じゆう）のもの

万

寶治二年百肩待時

万

臣位知家

万

がくさひとまへひよたのまし今まおひのゆ
影不れ

志貴皇子

かわいのとせの舟のひきあひの思ひつまむ
内

瓦窓^{瓦窓}のまわらの森のわくまわくあくよのとけ
ひのときけかすりあらすじにほのよのまくま
内

瓦窓^{瓦窓}のまよだくじわざまかはすくまうてえにま
内

瓦窓^{瓦窓}のまよだくじわざまかはすくまうてえにま
内

瓦窓^{瓦窓}のまよだくじわざまかはすくまうてえにま
内

名安百萬

清橋御内

か
またとひのき夜よまでわくまわくたんじ森よまわ
家集家^家

中野言家^{中野言家}

まよだくじわざまよだくじわざまよだくじわざ
あ元^元年百萬郭^郭入通^通大政^{大政}内

まよだくじわざまよだくじわざまよだくじわざ
常盤^{常盤}百萬羽林^{羽林}内仲^仲内

がくさひとまへひよたのまし今まおひのゆ
家集

信頼御内

えりくまじのひわざまよだくじわざまよだくじ
千五百番^番千合^合信庄家^{信庄家}内

下とひのしほのひとまへひよたのまし今まおひのゆ
は

三百六十角中

母集

がくさひのよまゆとまつりわうのまきはまき

五百青の合

大荒の育家

すくまくみよもまくまく郭云

未議雅經

うねや育、すとむにますすそとむれ

天仁二年十月所附家主公会郭云

琳賢は所

ほよよむわそのも郭云もひもよくも

建保三年内大臣家育

前叶納言定家

郭云もよもよも家でのとくもよもよも

有厚育李

下露

かますとよも育のとよすも衣のゆり此

洞院持政家育郭云

支後細

郭云かくよもおのゆりはらもともとお天氣

社政郭云

えもよのゆりのゆりとさくがよもお天氣

野

かくよもおもよもおもよもおもよもおも

えもよのゆりのゆりおもよもおもよもおも

信良郭

がくよもおもよもおもよもおもよもおも

昇殿御多賀
りやくめいだいか
わまきまき

同

友左季経

たまうのゆきせむし郭云まよとよすころ

内

は下充寛

猪人とすとかつてわくすひもとひふとす

内

後禄は所

うきいきやみとくとくのゆきをひのとく

永万三年重萬家奇会郭云

有原松保

まくよこひものとれびにまくわらじとくよつまく

西三位家

新古四月
玄
ますをものめられにまくわらじとくよつまく

百萬うすく

は下三宗

五月生のものとれびにまくわらじとくよつまく

元永元年五月生入通

古吉

長實合郭云

後潤大文郎季之

九月もくゆすのわくすしもくすわくすわくす

保安二年四月賜た牛長長實合

郭云

有原松忠

もくゆすのわくすしもくすわくすわくす

弘長えも百萬

郭後潤大文郎季之

月もくゆすのわくすしもくすわくすわくす

寶生も百萬

郭云

ちやくゆす
田代も百萬

洞院橋取も百萬

光明寺入通構改

ゆきのひなとよしむらをすこしも
がくますやうすくらえのりすまきのあはれ

七百角セブノハタケ

檜傳ヒヅシ

金きりもんのうへよしよさうといま

月ムツ

桂宣朝ケイセンノハタケ

かくのあくよわくとすくよかとく
のすあくとくのくとすくよかとく

家集

奪大其高達ダウタキコウタツ

じごとくまくらんがきすたきのとまきわ

殿上會デンジヤウ

派伴ハイバン

まきよせらきのくのく部マキヨセラキノクノハタケ

か集カジ

夏衣カミのたひひやまく神カミまくよひ

五言

元方

舊作カイガ

キモシタラシハササギとくとくのく

小峯コノマの部ハタケ

大納言經信オノグサニキシ

父アツ二年百角ハチイリハタケ

天アメ入スル二京ニキョウの文モト

りくますうのとくカムスウノトクすすてくともきわよ
墨モク入スル橋改カイガ百角ハチイリハタケおほ連オホル

民ミン詠ヨウ家カ

そやまかすまくまく青シナノくすすて

月ムツ

人ヒト

うきさひをもとまわられぬのまへるよひす

家集文中

中納言基良

説文
伊勢集
和の元の辺りス

あまのまことのうふく

前中納言西房

なまうけやまのうち部とあまくはそをすらす

部とまゆ

おもすかのこえれどびとく

因イ

因イ

ゆくまでまよひすやくまよひすよ下を

家集

先後朝夕

まゆ

5

まゆせの里の事とまゆせの事とまゆせ

因イ

正彦家集

因イ

むきさひをもとまわられぬのまへるよひす

内

家集基良

三

うてりがとうとめくましらひにまよひす

津集

元南大夫

四

たゆくものとちとまきくまよひすがく部と

文永二年八月殿七百首

先後朝夕

五

むきのとものまゆのとまよひす

影

先後朝夕

六

みゆきしまよのしゆどもまゆひす

百首奇

前中納言基良

七

わきしまよのしゆどもまゆひす

歌合全脱

百首五奇

後九章內大同

月朝のいはの山のいとすすすすすすすすすす

家集萬山郭云

陰陽大久那事

名代といひゆきのうとときもすすむむすすすすす

海波郭云

同

今月より船でのいし郭とおまかこじまよ続

家集

而上人

かとくさくわくわくわくわくわくわくわくわく

題不幻

郭ていそきゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

有原國房

東方時事新報屋
萬葉抄傳於子書
耶也

仁和元年行年

やまら倉郭云

转人不幻

かとくさくわくわくわくわくわくわくわくわく

保安二年同青賜た生長實家三令郭

佐鳴郡

かとくさくわくわくわくわくわくわくわく

保安二年同青賜た生長實家三令郭

佐鳴郡

かとくさくわくわくわくわくわくわくわく

保安二年同青賜た生長實家三令郭

佐鳴郡

かとくさくわくわくわくわくわくわくわく

保安二年同青賜た生長實家三令郭

佐鳴郡

かとくさくわくわくわくわくわくわくわく

保安二年同青賜た生長實家三令郭

佐鳴郡

承安ニもあ奉代教長事あり今虎部云

清樹洞口

赤葉丸

千首書合

宣和院丹後

千首書合

或子内附

千首書合

或子内附

千首書合

隆信朝口

千首書合

或子内附

千首書合

後見事望口

通花林
傳記開
らまほはく
あまの月のく
枝葉見

新文

千首書合

後見事望口

千首書合

後見事望口

千首書合

後見事望口

千首書合

後見事望口

かはしまらへるを此事のすよと
郭^内_因をゆきのきくらへぬへかたのゆひまほり
おさめもよのまのれ^内_因をもやうとけめもと
時^内_因すとのれど風^内_因まはゆくまわすまくま
牛^内_因郭^内

わきみゆきのゆのあつよがりうれつよまきよ
又^内_因風^内_因郭^内

こまれる角^内_因をせんまくのゆくく
南^内_因の筆^内_因のとき 稲鳥^内_因ねんわ製^内_因
そまの山^内_因はよきわざくわく^内_因もとゆく

五集

福^内_因徳^内_因

首^内_因まにまくとうけよ郭^内_因をみて
有尾情^内_因
かまひひりのあととくとて

五集

秋^内_因かひりあらわせとまし一とまえりやす^内_因

猪^内_因のをと

時^内_因ひづらにじゆく^内_因てよじふくとおまく
寛^内_因治^内_因七年春林^内_因吉^内_因根谷

猪^内_因人^内_因

ますとてうちあさと郭^内_因あまくともゆく
禪^内_因禪^内_因子^内_因郭^内_因家^内_因合^内_因郭^内

とひかよかわきにあらとまわせすまわる

仁和元年行幸室を三つ合郭同

ちからてくわまひそだはひまもじと車の同

うにまく今坐同まくはとよとゆれち
承安二年四月東寺合勝郭同

通同門

内なるにとてしてすみをききとあらへて

月 ほ揚頭帖

未とてりあくらんとまくはとよとゆれ
は主判者同捕手首尾うるしてさもと
又郭をとしとよとゆれくよめつわとく

千五百首奇合 宜林院丹後

がとさすとそのうとすまくにあらむとおもす

百萬石

たまに通立のみ

軍の居れかも極の水のあとよとく

召集部

未とて拂刺

きけあきひらり 附すく君のふくよ

文治六年九月百萬

皇太后主大文後

がとさすとよとくともおまよおはす

正治二年百萬

慈祐和尚

黒毛ふれたらと風よ山よまくとくわ

三井和琴

鶴長明

ますまくとゆのれまくとゆまくとゆまくと
まくとあらとて郭をとくとくとく

郭

詮へよひす。しりへきはかひのうのうせよ
えまほ入通ニふれよ五十肩足部ナシ

後二位も達タツ

あらざくねよまく部ハラカのゆりの度ヒトやあん

家集附鳥ハセツフウトリ

後形鶴ハシモトリ

次即身セイジン也

御不支等メツシヨウドウ

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

あらざくねよまく部ハラカのゆりの度ヒトやあん

御不支等メツシヨウドウ

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御不支等メツシヨウドウ

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御不支等メツシヨウドウ

御

御

御

御

御

御

御

御

御不支等メツシヨウドウ

御

久安右衛クアンザエ

前參議親隆キンラン

千首古合

四

よもりれあとのきとがくとましののよもり

名所郭アシタカ

ほり奈良大門

津集

鎌倉毛多門

力月アキの重ヒメのかきゆすまきアキれ松原マツハラのまよアキと
郭アシタカまくといすにいとアシタカとまちつうそ立アシタカのりアシタカけアシタカわす
りとましきまくみのやせアシタカひとアシタカとせせせせ

六帖題

五三位知家アシタカ

新アシタカさきを言アシタカりアシタカとわくまじの元アシタカ三よアシタカやアシタカまく

あ葉

西アシタカ上人

ひまつらアシタカとくめをよかアシタカとせあとのまくアシタカ郭アシタカ

家集文永アシタカの若翁郭アシタカ

信傳山翁

そやどりづくよきよくアシタカとくひにまのとくアシタカてが
達保三年内アシタカ大門アシタカ有翁嶺郭アシタカ

信實朝

まつりまく雪アシタカむるをすくうやくましのまのまアシタカは

承久元アシタカ月裏アシタカの合方焼更

あ大納言伊年アシタカ

わらうふよきよきのひのわくますおきて正うアシタカあ月アシタカ

順應院津製

えもよきよきのひのわくますおきて正うアシタカあ月アシタカ

詩集文永意

後九条内大門

万六文十二

おひやけもあけゆくとまゆさきまくちを
ほの御度の御の山よりて海せきあらす

三右衛門

中榜のとこ

お年頃じしれあとれださひもよろづと
兵衛入通ニふかまむ五十肩

東太后

お禄て年百肩

民詠てる家

タクシのとおのせんとまくがくいとくと
ゆらえうつしまのせん部同を重みわすれり

弘長三年内裏百肩

後二宿行幸

おまかせア おまかせア おまかせア おまかせア

近因卦

東太后

おそれますよにほどの里よまくかじめす部同

文永元年七社百肩

前中納言定家

おもひもやくともとくらやうの里のじよあれ

建保三年右百肩

同

月夜うそすを河のうきいねのよわすあ

内

お清内侍

郭工こうひをまとみのひのとくにとく
せんぐくへ
うみすらん

内

五座知家

ゆづかひきうどのかまうりとおとゆせざりと

郭云中

待耶云中

後村ね戻

立家

内もよしよひあたら井てしきよくよおと

西園寺入内もよおと

立家

ちわこの衣いとわいたすあまのかくやまうとくは

中村云中也五十首合

僧云胡牛

かふかがうみのれとよのとよの内翁もよ
判者え後院立もよの鳥とく日かとく風
馬とくをとくにけとく晴の字とくうとくは
らき

建保三年右百首 知家

がくまくくよくよくよくよくよくよくよくよく

内

行健

郭云中

僧金右大院

ちあうとりおとよくよくよくよくよくよくよくよく
とのぬのやうしとくうとくよくよくよくよくよくよく
建保三年内大院也百首

大亮也百首

てよもよまでらまのよよもよひよもよ

千首書合

法橋院昭

今まつてのものもよひよもよもよもよもよもよもよも

くまのよきやせぬけうけ

後醍醐院御製

國とてくよれよとまき一郭云あきとよまく

亥年中

尼頭因陀所

さわらふとよつせりやきいひのよみよことめ

文治三年百首

元年御言宣家

いよせひのよいのれかひきとよのひのまく

承久三年百首

同

もじとよあすまお部云あにくわかの森のよと

院山者よて部云

同

絶わひよの牛山者よて牛毛をかひる

建保三年三月屏風

同

猪子

亥年中とよけら幸角

同

もじとよまきよまのれ

同

承久元年内裏は金曉部云

同

いよひうわすせうひ生やまと人をすむ

亥年中野郭云

同

吉城野の木の下有よ

同

寂勝室主院右下野郭

同

郭云よくス月よもじよか半身の神よ

同

卯集郭云

同

時もくわ写したとれ郭云よしらすよもじ

建保五年内裏十首合

後二住行整

内もとよまくものとさうとがものとみのりともし
家五十肩里附る まも段入通事のとこ
色あくをもとのの里の右と左と郭云とそとよ
内 法下定範

うき次とモウセアリテキシリオレトキ
内

住庄範家通古

内もとよま井の里のとさうの高ノ木もとよ
洞院村政もとよ肩郭云

後北条内大臣

風とと落とんと行とまもとあらのよきの
家五十肩里郭云 東北後北条三五郎

住庄家傳

ぬ葉の里のいきあはれにさくらもくとひれし
郭云と一

家令法仰

住者のもとをもとてねまひとよととのよま
百肩里す中

慈能和尚

すまう山郭をもとやあらゆとしましてとく詔
さく人同イをもひそめやせ詔同云とすすけすす有ス

ととく同よりよききえの郭云とすすけくとよ神の達
利乃多のとすすけく詔同云とけくとよ神の達
ス有スよひだくましめあきてわらやのとすすけ
永亨二年六月附る 太宰大貳重家ナガキ

内もとよまくつとくとさくわまくよとおわき
内

冬の用事ある合

冬の用事ある合

あらまじきうきとやれきしとえみわきよ
五月三日五月三日内裏寄合侍郎

侍候捕臣

育ちよすてきくとやれきしとえみわきよ
判老郎こといふるもされとあからくす

千五百番寄合

後高麗將政

りきとわれだもう室の行のあつめのう

心寺郎

而上人

舟郎

風仲

育ちよすてきくとやれきしとえみわきよ

内裏侍郎家有首郎

臣三位行続

またのとくわらじうがきひよのまつまき

内

列坐はうやくわら郎

後九条内侍

育ちよすてきくとやれきしとえみわきよ
内裏侍郎家有首郎

臣三位行続

もくつ時やこともわありの郎もくさり

内

宗長相

おまえの神をさめやへすすきもとあらか
内

後成安

おときひをのよしよもわくあまくみゆのとよ

久安百角

前中納言白房

あくらやのよもくにあまくみゆのとよ

用白あ玉合

前中納言白房

弘長元年百角云

民歌てゐ家

りりすすみきよとくさすらしくどんとかきの

家集皮部 トヨサト

トヨサト

あまのとじすますまのまほの部 云くゆふれくも

皮實アヤメけづる皮部 云

おときひ火のじの部 云くゆきよとくに承

百角云

前中納言白房

おときひみのよまきまくはまくはまくはまくは

建長三年春一首中

民歌てゐ家

おときひ火のじの部 云くゆきよとくに承

内

内

おときひみのよまきまくはまくはまくはまくは

内

内

漫畫室

夜寄中

前大納言白房

おときひみのよまきまくはまくはまくはまくは

内

内

西山作

人丸

信濃守はどくのあくすとおもてをまかひにす

千五百石手合

近彦保手

郭あらすまよしもとあわせよひひと

月

侍候

おひじとさひのうちすとくふとまが

因イ

ねとすれ山だくさんじゆうすきとくとももほ

文永元年七社百石

良助てあやめ

かさじゆうとせうぬよだくまくひゆよじけてもも

京大傳正医東泉障子繪

未誠あわ

かみのねの一本やうりよるまじうよくま

因イ

豊後百石中

山城うやうやまく里ちばくもあくすくがま

海老宿次燒百石

因イ

月のあかんのいのうきまくまよまうてそ

平肩工

事

とあこく袖うそびタキよづきくすめだま

足

因イ

鶴尾のまくよあてや郭手のみとてじよまむ

人木

因イ

木をすてりすもす郭在せむわく睡の

木

因イ

漫不急大
綿錦室
寝てはま
木をす
木をす

木

因イ

書本手印

保安二年同月家元合葬

贈大本長實

時もつまうもといふともすまとうがりあまのり

弘安二年吉根文百肩

正九郎云

安あら院四宗

ももまたまきのとまわらまきにねまひもみのく

文永二年七月白向及百肩渡郭

之後終

おもいかねず漕舟のいよえまかのう郭

保安二年同月猪大内家元合葬

源經冠洞

兼不也

あすらや不破の主のおもがよびをさく山

洞院松政家百肩

住三住竹絆

おもれふてのくわざまきまきとまくわ

結縁經百肩

サガ内侍

おもれたうのじわざまきまきのくわざまき

吉野寺入内松政家七肩工合葬

住二住松氏

おもれわがむかわづまくわのくわざまき

家集

後醍醐天皇顯季之

おもれはむかの森よおづこてもももともも

お預三毛十肩工合葬

後嵯峨天皇

おもれはむかの森よおづこてもももともも

内

隆祐翁

おもむきのよまのすみれとすたまちときを経
仙洞三首の何を那

少将内侍

那玉事と月若うつともしゆきのゆくとてみ
用内侍とよとと
かげやつまとしかすと那玉事とその用と
家集兩中那玉 沈理大久保毛
立日あよひまことれうとさくいものあきてなれ
中院通至家二合那玉

神祇伯爵

那玉事のものがとうと五月事とよとよとされ

題不知

後人不知

かわの小ねのうのれとくわくのうそくく寒う
那玉

平乾忠翁

新編文選

冬衣のうのゆかわく半身事とくはくのう
那玉

山那玉

法下内侍

事

冬衣のうのゆかわく半身事とくはくのう
那玉

青月のすのうんとよとけつよ

鶴宣翁

いまとて山道のゆかわく半身事とくはくのう
那玉

内裏とて那玉作とて連寺不

かきあすりゆととせやととえいと
う風うやにそやまをあら

通信翁

那玉

新編文選
新編文選
新編文選
新編文選
新編文選

新編文選
新編文選
新編文選
新編文選
新編文選

。 育

千五百番合

東方店主大五郎

新松屋
花き育身をじもそりもよもあまむら

中務の又二 宮内院主

水まくゆのせん育身よそ人をやまうら

内

慈能和尚

生

百育身

家集内五月

信實相

ち

育身の事よくのせれどかんわらうてしゆも

家集五月

上人

ち

育身よぞうじにせんせはりやせね

家集五月

上人

ち

育身よぞうじにせんせはりやせね

家集五月

上人

ち

育身よぞうじにせんせはりやせね

内

修業

生

育身よぞうじにせんせはりやせね

内

好

生

育身よぞうじにせんせはりやせね

内

幸浦内木

生

育身よぞうじにせんせはりやせね

内

佐野家隆

生

育身よぞうじにせんせはりやせね

内

佐野家隆

生

又自あよからしのまつりうらも山のまようを

六帖題

表里内大臣

背筋かばねのひまわりはよみくらのまきのりうらも

治承二年た大臣家百肩五月雨

後高橋権政

九月又よそとのやうにかよきて行の事のやうを記

建仁元年先君五十肩寄合

又月又よそとの又月又よそとのもみすく白毫

洞院権政家百肩五月雨

極左大臣内大臣

九月又もみすくまくよしわゆくまくとま

信實朝臣

いと又空きのあやがわく人ゆの半身の五月雨に

信實朝臣

内

て事百肩又

まさる波

意和和尚

又月又よそとの序からよそむかゆのまきよそ

百肩又の青又リ 内

人まくひやせをうなぎのまよおむ下せのまのま

家集かしゆ山家百肩又

赤民詩雅

あひきよそむかゆのれ竹枝たけえうて脚あしすがおもせの青

百肩又すよ

中務なかつかてこそ

青又よそむかゆのれまよおもせの青又すよ

元氣三年百肩五月雨

乃と向うからあくまでかくておまではう青身の

乾元二年二月五日

同

身みね軒東よりありすますものとあきら青身の
君にひり合

市中納言を差

九月ぬらこもよたまもしてみむのすそといふ

あ元二年仙洞三十首九月

後二位を實つ

志底くよ水まと石とうじよてとき又日年また

山の青身

九月ぬらくじゆすまさとめおすせども

金

大藏で行家

金

詩集に青身

後九家内本門

子月ぬるくあわすまれのりあひのきのひやま

天の戸入通二ふねすあひ立首

ちしもああらぎ身の室

大荒て有家

正治二年百首

後二位

ぬらくじゆすまほとあきらめの歌

十是百首序序 後高野在波

叶つもよちことおもひとそれにはすう有身

九月ぬる中

後二位家隆

身の草むけまくい生

同 はともあくわまれとくす身青身があがく游

永万ニモ青身經國て家二う合

也

の風景川口日向を
白雲隆方

はるか春の風

柳風はす風の

花もみの川舟

有志賀隆翁

の風景川口日向を

白雲隆方

はるか春の風

柳風はす風の

花もみの川舟

九月夕かきの柳の葉の下をととのうとせらむ

蓮生は所十葉よ民故てあま

資國家子合九月夕

後序

まよきいさまもかくすけにいよまともよがすく

西元二年百首

四

凡あきりとどめは水うらてかくとおまつはる

洛水ニモそぞ家百首

育あふるよしのうらに

四

雨中郭云

而上人

橋のあしらひすきよもとく山郭ふれりむ

百肩工の青みと 京議雅経

せうぐくて占あらわ月來かう物ともひしてそづ青

十五百青工合

前大納言急家

五肩あつまますされどひこの月のかげに松毛

行人

躬恒

空高
玉高

五肩のまこと時有教のありきまやう

結因院脚

はよきにふくくとほきち青のみじのまのあら
白拂院テヨク

元永元年正月十日中後入道大矢

葛尾通經

もす可合五月

葛尾通經

ゆきよくわざとまちり肩毎のりねふゆく

千肩寺

民勤つる家

かずあきらますあじ裏のまれせあまの青舞

あた復回うかひととせかま衣まもひく

四

毎日一首工中

四

上月每のたまのとく舞たまに舞たまの舞

正元二年毎日一首工中

四

わしづかせてもひたまきの素まに生まき青

四

文永二年毎日一首工中

四

それまよきとものとく舞まよく日まよくまの舞

寛元二年日吉社合に五肩雨と

信實院

山と入のとこにまきやうてそらのあらく青舞

支後院下あ書文い

泥付ナフ

明玉

けのじととのひうち水ミツのまのす月ムツ

玉タマ中コト

寛感カントク

まよひこてくにまわるハシナリのす五月メイ良ヨウ

内ナカ

後德大寺ハチドウジ大寺

アヒヤとの河原カワハラ柳ヤマモモけもえひらぬ有アリヌる

家集カニツ

死シり上人シテイジン

少シとさへあらげアラゲまのけあケアしう月ムツ

因イニ

そのみゆうのたうタウだりともすすまゆく月ムツ

別れ家三育トリヨウ育ヨウ合ガタ

支後院下ア書文イ

泥ミツのやせやうくす月ムツあめのすスむかはり水ミツ

玉タマ中コト

は九赤クシキ肉ナ食エむき合ガタ具ツ競キ胡グ長ナガ後ハシ院イニ

上アマ身ヒムせえりの原ハラきかカすスのうウ水ミツまマすス

千音チヨウ番ハタケ合ガタ

參讀雅經サンダクヤキヨウ

育アマ身ヒムにじゆく原ハラのりもやぢヂかカくクあアつツや

京キョウ後ハシ院イニ名メイ水ミツ満マツすス

千音チヨウ番ハタケ合ガタ

具ツ競キ胡グ長ナガ後ハシ院イニ

育アマ身ヒムにじゆく原ハラのりもやぢヂかカくクあアつツや

まマすスきキまマすスきキ

ほりまわるのまゝの青角よほよとまくら書
家百首店の青角 因陀持故

青角じよせんやまとあきやものたゞの筆

珠子内教丁家書合五十九有餘

加矣右ノたまつ

上月のさかとやかのわからたまえのせうりも
お詠ニセ百首

民アラムシテ

まきはきのうそに舟つてまきまきと舟

上通

大納言通具マ

九月あへそのまのまのうつゆすの草

天皇院入道ニシテ五十九首

五三位季春

凡わざはわやにすうさんわのものとひをす
天皇院三月貴之あき合裏仲友

後人不ふ

ゆうこすみの氣あやの御のまくわくをす
天皇院四月竹附ニ西三合又月又

仲實羽衣

あくまくスルのまくわくをす人とひをす
天安百首

花園大臣が小太進

青角のさかとやかのわからたまえのせうりも
弘安元年百首青角

常坂年入道大納言
さくすまくわくと青角のわからたまえのせうりも

表文後入通ニ承狀至家奉手書

源師光

育母也とあらうとゆれもかのひまの候
家集五月と 源有仲
育母のあまのをやけいともむくのをも
内院持取者育母育母

之のうちをまにしとてやどり主事者

勤勤とあ

○照射
百育等

順徳院御裏

とすじたとぞ承すよおきまくとも承

津集照射と 法性寺人通用白

わくもと二林のじよ種へとすがのましとそり
下重出六月と同
三月と同
先とくにあともうとすもよどりをもくきく

百育等

まこと

育母やこりとよづがり人のおおわいれをもくじ
家集方と

少半

多きらうよづがり人のおおわいれをもくじ

家集と

二表文後身太店玉大貳

切人方のよづがり人のおおわいれをもくじ

百育等

六集院宣旨

うらゆどそのの尼よりすひにまくとくを席定

長久三年九月庚寅夜祐子肩枕了若齋

合民元時監射讀人之

しきりにいもじの席のゆりとさき

かきだり

四

まめの東のあににゆうひの席のゆりとさき

長治元年五月原宗吉が合山城照射

信賀は仰

天鳥みやまもわづりとともみのよ神ひま

内

ほくのむらにゆうひの事づすと生也

正治二年百肩

ニ承え讀候

有志助則

せりとしとせりとせりとせりとせりとせり
あ集ひうるの

信大納言實志

喜集惠志中

信二佐藤

おもむくやもむくももむくものひへからむむひと

文治六年五社百肩照射

皇太店家より後成

ゆどとひもにひとかまつてものゆのゆふあすと

金井またゆくひうそて

四

うりにもむくととくととくととくととくととくと

正治二年百肩

四

135

以てかの事の事よりもあらうとすとあらうとす

家集終承照射と 神祇伯頭仲

とを承りたる家を付す事よりあらうと見て之は

家集

あうちた所やにまひわらよけてひらす拂

拂集

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

久安百肩

立身やさしくはくまつあらうせきのとある也

千五百番三の合

あ陽院封あ

百肩拂手

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

百肩手

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

文作二年百肩

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

四五年百肩

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

立身照射と

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

六帖題

立身のよどすうして屏山と云ふ御集

十五百肩三合

法橋頭船

卷三

四

後三位家集

本

カ

盛

りうけ席あるひのひまへよが草むとおひ
博院内附百首

仲實初

あひすものもいすとちよしもけす

歌季も合照射

因

わちのわくのまわきやくらはゆるよの

天正年五月六日大吉かす合照射

徒人乞

いきしてあきさと思ふもとせまのとせま

家年十首合照射及焼

勝利大久保季

一宇抄

博院内附百首

仲實初

育家うつ席まざりせよのせにもんか竹

内

博院内附百首

かすものをよし麻のみをかすも

麦

三首六十首

好思

赤

あ葉

みのよ麦声

田家衣雨

博院内附

月

かすももの麦めぐれとてまほすと

正月二首

高木納言隆房

月

さよひの下麦のうり風すれどとの
正月年子月常切陳う合轍

後人不効

むくとせうとくとまくらとしとじきねともち
わ

牡丹

百首序

無能和尚

夏本立之秋の序すしにかくよそうさまきよ

久安百首

市未廉教長

紅葉集み草さくまほりじゆすわかくわ

達保てむ百首

あ降ふ

もよきの扇立時をゆき來たすす持姫の難

棟櫻

題

中納言家持

王あくわらといふまくはる御云がひくう

久安百首

隆季

王あくちあじれの多よううわく事じと

家持

かざりわきのうしれとあてあやのれすよみ

あ集

殿高麗大角

ぬくとくよしよそめ(殺)うあらすうひのあ

内

手書

あらはまわをすすみをりのがくわ
六帖題

新立

長生内侍

部

建長八年百首三合

西住惠定

あらはまわをすすみをりのがくわ
判者 行基云わく汝よあらのまわふとや
うきゆくもくへえよがれうる玉たよりで
きじゆ名とわまるとやよくくらまてえ
やくしゆすと

百首

あらはまわをすすみをりのがくわ
後醍醐院題

嘉祥年百首

氏部家

めしをどうぞのわたりのあらはまわす蝶衣

六帖題

凡くまゆのひよ

信實題

そらのあがめのひよ

本多信實

百合

題不記

紀盡河

わきこらはまわす

後醍醐院

正まさこらはまわす

後醍醐院

月

岸達行

塙のあまのとましはのよもめぬれば此のよ

月

近枝經也

且とよりあぬゆわりとて候くと人を

月

猪人一

久らの色の花よりの花花の字かよ

月

坂上郎女

五
秋の時の毛毛の字もよだけに

月

恵美子

暮がのせよをとくせよをすとくの

月

鶴鳴院

家集 源仲

久

久

金きの毛の毛からうてようけはくはく

永久年直

仲實

院

久の時ちやをのひのねのねくらむ

月

百音

院

度の毛の毛からうてようけはくはく

ちやをのひのねのねくらむ

月

百音

院

院

金きの毛の毛からうてようけはくはく

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

金きの毛の毛からうてようけはくはく

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

院

望雲行

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

格門

育養子令教の

枝高枝枝及

昇牛のとどけましめのひもとより月
はすも方人罪月よしもとすとあるも
隣云月とらむもひけすとやくほすと
もじ村左右人罪云國ゆすとそ

月

家隆之

大井河のとくのとくの母
は寺中村をうのをひの御
御のるいのとくとくの御とくくさん
せくにもあきもとまとこのりすとくすり
いじむるいのとくとくとくとくとくとく

月

すと松木未山原

か川をせのとくひすとくもは
内

法鷄引服

月

千五百書五合

月

かのれ舟と

古林影

ま後耕

かのよよよよよよよよよよよよよよよよ

人

天竺國土

卷

格門と

かのすうひとよひひわけてもの

もの

月

ばあううおおうだまとて物をもじゆの

家集よひ

僧昌云

そひうわあわうひへがましらよひものと筆

内閣文庫

津集

ははもへた用日

毛う川う舟のかりりとあともにうきてわと思ひよ

同

六条のみこ

うのきあいの川の船、いすけ日乗すよひとけよ

嘉二年百月

東之庄東主後屋

かりきうらえのむらうしきくねとわきゆくい舟

近房家寺合橋川

今この月のうちれい舟川内をよたまふる

長治元年正月水端家寺合飛川

參誠忠基

移幻舟ちよだみときととどりわあうよひかり
禪子舟就家寺合橋川

讀人不知

かず木よだみのひじくらやさうてもねあよひ
長承三年五月移幻舟就家寺合裏

安左尾毫

あさとよひ家寺合飛川

天治元年正月天治元年正月移幻舟就家寺合飛川

修家寺合

天治元年正月移幻舟就家寺合飛川

円

行真住師

五三

うもむらうとの取がすはりともしかがまをあわ

内

良快

所

舟のよしをすとすくらはぬせてとひかと舟

あ集夜向

市日歌雅有

やまく船河とてと夜のあひりややみ

水冷

大意行家

船舟さひるをの風の内よまに秋よれとあか

永久年百萬

大意后文取

おひやは船舟のうゑおれぬよとあり方

神祇酒呂仲

船舟さきくはれ

内

八家入座を改定也と今船川

内

やうめいのいりますと大波よまひのねせまわ
お家船川と 大宰太貢高麗の

とお川とよよますから大のいりまくにあまう

内

後換船

ますと船のせじよもひとひもよひとす
りも川たとと船のよよきとひてよすかとく
がア大のよけよれます もだよくにゆく

百萬

内

底の夜のよけよけよけよけよけよけよけよけ
仰時をす合水色雲大

五度まかりなげた舟の書いりも

被人一ノ子

現存

玄哥中

臣二位御中

のうやせの毛皮とくらひ母にましとすがをもて
裸子内板とすと合鶴川

玄藏

かくまのけ毛をもすと川の毛をもすとまほ

内

日未限内

ねまくはなからしきしかり大の毛序からとひの

承暦元年十月博門院中官哥合鶴川

仲實(朝)

梅(も)のとむと鶴母のとむと度のとくもかくり
玉川のゆ(ゆ)ひのゆ(ゆ)かりよだよとくばのとむと

玄哥中

ほ一束入通用

新古

かくまのひわもすとくめよくアタモミ河のああら

承暦二年堀河院中官哥合鶴川

隱經無れ下

吉野

かくまのひわもすとくめよくアタモミ河のああら

長治元年六月主戸房(ヤシ)家哥合鶴川

讀人不知

今時(ヒトメ)の内(ナカニ)とくみくらひ毎(エリ)もすとくみくらひ

白(ハタケ)の風(カキ)とくみくらひセニテウヒタシテウヒタモ

延喜二年中官御屏内

貫之

新古

かくまのひわもすとくめよくアタモミ河のああら

かくまのひわもすとくめよくアタモミ河のああら

長歌

旅人をも

うやつやのぼりせのあゆくはくにうりもの

うやつやのぼりせのあゆくはくにうりもの

○水鶴

くまとくよふにくせのたくとく

けき月

後續経注

うまとたくく升るすなりかうしむてく
あ集海を水鶴 源付

らどあはあらひの御よみがくたく少郎すら

神山とすすまく年がと

大僧正行尊

宋の戸とたくかなひあもきんをこどる年をも
永承六年、丙寅庚申、夜祐子南れすも年

合水鶴

年

日をくわくえの木とくとくとくとくとくとくとく
君臣御哥合 高寺納言あ意

タヒム御北風まくとくとくとくとくとくとくとく

○塔

建保三年、右西首御身

順應院に割

おれひをまことによつても人をもととす

僧正行意

尊古

内

554

ちもももの森の下宿よすらもくやうる宿

内

三位知家

卷三

井宿内新よからずをうちへりきり玉薙新のとまわるこし草かげすはあそび

内

後三宿行經

卷三

桂新くいみほよし草もゆらもいふ宿とわる

千五百首寄合夜四

後高野構改

卷三

皮新と原たまゆ新や後うら全どく宿よ毫毛

中集雲

内

神新とつまよそりそ雲新とれど多幸せ

集玉

寒新まほ師

卷三

皮新と原たまゆ新や後うら全どく宿よ毫毛

中集雲

内

家集玉新而新上人新りき

中集雲

内

水新よ雪新きのす新すなまく新りがてし

中集雲

内

文治五年立社百首雲

東大店主多作

立社ひりとくもくもくあきけの雲新とく

中集雲

式子内新お

水新よ雪新きのす新すなまく新りがてし

十五首寄合

大納言通風

立社ひりとくもくもくあきけの雲新とく

内

中集雲

えじのとひ 桂樹えさのうてわるもんめ

内

西園寺入道兼太政大臣

玉あよのわづれ新しきて年かのとを

慶

寐蓮住所

承久三年正月百首

後二位家隆

前思ひや萬事野ちやくすメ事の
百首千首

前中納言定家

百首

集室

後高村構改

宝刀の肩の雲あけき

後馬頭院文

千五百首

五

軒もあき月もあきとしのをひのり

百首千首

左近の花

村家の見るの筆教えて風吹ともじゆの文

十精文

常道堂

辛丑韻寄尋夢覺夜枕不外
切れやめ宿ありはまよけつ筆うそよ

承久三年百首文

深風冒

古村よすじえじへこそのおくらじわまのふよ
長の院入通ニ示歌よせ五十首

常道堂

其後へまわるやうに軽くうてあらかじめ筆記し

御内院御時百爵 帝室御言述序之

百爵は本居宣長よりうきよの筆とあらば

五色百爵

五色百爵の事のよきをもとあらすう筆記

内

寂勝堂天主院若節障子

後金承平右衛門

きやくわざの風うきかへ障子をひいてと量
り

家集

鶴毛羽

あはれよふ筆のむらとたらせこゝまの
達仁年号合

慈鎮和尚

鶴

雲

えうすが陰

大口廣言

里

ももにすと書ひすみのりをひくからうす

家集

正祐家

きのくわせせらひらどめらまきこねらうす

家集

正祐家

ももにすと書ひすみのりをひくからうす

家集

正祐家

後三位家隆

あはれよふ筆のむらとたらせこゝまの
達仁年号合

慈鎮和尚

里

おおひいの草のむらとたらせこゝまの
達仁年号合

慈鎮和尚

里

たれよつも雲の衣のむらとたらせこゝまの
達仁年号合

慈鎮和尚

里

家集海色寫

清浦朝臣

里

と風向よろしく書ひすみのありとまわぬ病の量行

題不知

信實朝臣

里

現存古蹟

永仁の内裏五首水色夜水

參議方相

又きゆく雲けやたきの水とみよの玉城

乾元二年仙洞詩合。是ノイ 同

乃れゆく雲けすまけす月はかく夜のを

後左衛門太白家首首治雲

隆祐翁

おまひくつこうほの原石すむらのむらうる

十種仰社百首樹下雲

同上

青羽河のそい柳す風よがく松すありのけ

表遊入山す林すあく

隆信翁

ととと河せれどもむらりであつてうわけすま

佐古社百首ゆす

慈祐和尚

住のえれづれづのあれどもくまくしのくねの

文惠院七社百首

民部方相

是ノイ

すものえのむめひづくづくほれどもすあくらる
水河川のそまへはよづやうろくとく玉のきよとく

河を見雲とよるを

もこれのすもすをよしよしよみてよま

千首翁

同

うれづきわがのまひづきなきよまくら

文惠院年毎一首中

だよとすゑもまうあれよのまよすあがく

結縁達百首

小將門作

あさくすまかみすしよと井戸せうすよりひづれ
セウニ年五月祐子内郎すあら左兵三合

枝人手寫

若ちう向うこまそてくえの來い量しままくえよつ

津河雪

大納言御住

さうだの所まわづとまきとむとおとがくまくわが

行路雪

因イ

りくわくすまえまくはゆひをすよれ

古寺雪

因イ

まつももももも林のりこよしにゆうてわく

河華ヲモ

法下實伊

富
為相坂

ふゆよきせうけやあまのひげせ年はるよつて

梅葉

絹絹綱

あちじうとけのきよとてたうひ舌のここと歳も

仁和寺名にて今作させきらう次水玉葉

絶仲

うひうひとくとくとそつてゆきり葉うら

あ葉集葉大乱風

因イ

風吹きほらしあく涼は立井とて毛のひがくの風

長承三年六月常盤葉五百番奇合葉

照通院

因イ

まけのうて舌河とてすよまもひすまひの中

内

名見胡白

田舎者とまじめに、まことに思ひておまか

内

あいすすうて告げよあらへやもあひゆゑよ

内

已定すすすつよめく、わろちあひゆわわわ

内

内川は津時百首 隆源法師

すきゆくのよすくわうとうかこよ

家集ナ

碧霞院文書のうち略也

七恨のタ殿華毛鬼思情抗大正の間

大宰大貳高遠

すひあわ夷ともたきわとかう葉とうきて

沿足

家集ナか欣

契不寫

枯拳

すみひよまゆのゆきにとて、夷とうすくは

辛子にと食筋百首

患拳

六六病

くじらにすす葉れしは大とすあまうむを

みのね

か集わづと

子日

か集わづと

もたる

か集わづと

こんじかまつ

か集わづと

かくまつ

か集わづと

かくまつ

こうよ身とすす葉れのりれとすすふ

延長八年百首二合

法界實存

かげりのよきくはらひふううまもひゆあらまひ

百翁う雲大送筆 宿蓮法師

玉とくもひまきあれじとどちひとすてより筆

玄集

參處方相

皮毛のよきくはらひふううまもひゆあらまひ

被翁社百翁筆

皇太后之大文後成

せうりあまうみのひととくねとく神の筆あくねう色

百翁書

去ゑほ入通ニ東の文ニ

小じ雨にえの筆あくねとくねとくの筆もの之火

夏ひ云中筆大札御秋已过

り書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて

後高麗校政

京極虎以

り書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて書ひて

月

鰐舎を天下

かきつゝ日ひそひよひ防すとすとすとき也

玄集室

而民勤雅有

うりゆく東樂に西樂うて萬人合意

月

後九章自序

かきつゝ草木にむくもく頭ひ又りじわじわ

殊子内れす家す合 良藏

草木行ぬよがうのひりとしもくせんとく

えそよスの頃とそつこまことにあよやうかり

元治二年百翁

二条院讀後

朱すすまことつよ雲と月よこひの頃とて

えまほへ通ニアホすま五十首口量

家長松

かづきひもあしとて清り入るの葉すまく

月

ほ下幸清

多とねどれいわみのよがへすとくに葉

百首工の儀室

支後胡

日と月は神のものゆふらうまくちゆの月

○夏神樂

屏風工のイモムラ
夏神樂すむす

涼席毛先

山のけみのやまわしとくもす御のき林

玉衣草内裏夏神樂

順

妙次

りあるよつて渾ろの深こくわすすすれ

ア李百首夏神樂今食

前叶御官室家

涼席毛先

正源二毛首

隆信わだ

ゆすけこまびゆよ

山口上人

明

そのよどめあります阿祐さきにしづはきよ

式子内れすまきの言合

參政乃翁てわま

いもよみけこまびゆるものまやにてすまき

あ集文部

清樹胡

河は水のあはて水のあはてひもまくまく

家集夏神示

權僧正云朝

河社もによりあまの神といひも御心すれ

えみよどよめ

中原吉成

河社もとてありもあまの神もものゆす

河社もとてありもあまの神もものゆす

藤原重義

夏雜

三百辛酉五十九

好思

木の葉のれきを氣とす
あはれに風の來て
あはれに風の來て
あはれに風の來て

あはれに風の來て
あはれに風の來て
あはれに風の來て
あはれに風の來て

お集

忠寧

あはれの風とよそよそ
あはれの風とよそよそ
あはれの風とよそよそ
あはれの風とよそよそ

待良

後集

千葉

河内

千葉

後集

千葉

治承三年五月廿日書

四

百首

は九年四月廿三日
居ことのうえ

本居宣長の「本居宣長」
海道宿名百首もつづ

參照乃相

此卷是右軍之子司馬徽所作，其文辭清雅，筆法流暢，具有很高的藝術價值。卷首有唐宋元明諸家題跋，卷末有元人評語。

乾元三年紀汲奇舍文

百萬文奇

宋蓮法師

同

宋念生印

御幸の御事に御心配な御事
御心配な御事に御心配な御事

三言詩卷中

卷之三

日向國
我禱の事より御て日向をえども
日向國
下りて林へかくに立てうゑのひよしきあ
日向國

立
卷

讀人不見

六月鴟聲似鳩

前中納吉主房

建長三年每日一首

卷之三

わまきの身をかづらひとまよひのけぞれ

三百辛酉中

好是

みときのわざのあらわしのうらうとくすまむ

友原長浦すとけり六首詩

友原久郎

あらわしのうらうとくすまむ

三百辛酉中

好是

もどりいととよとよとよとよとよとよとよとよとよ

西安二年三百辛酉

參諭乃相

すまむらうとくすまむ

建保元年三百

亦中納言定家

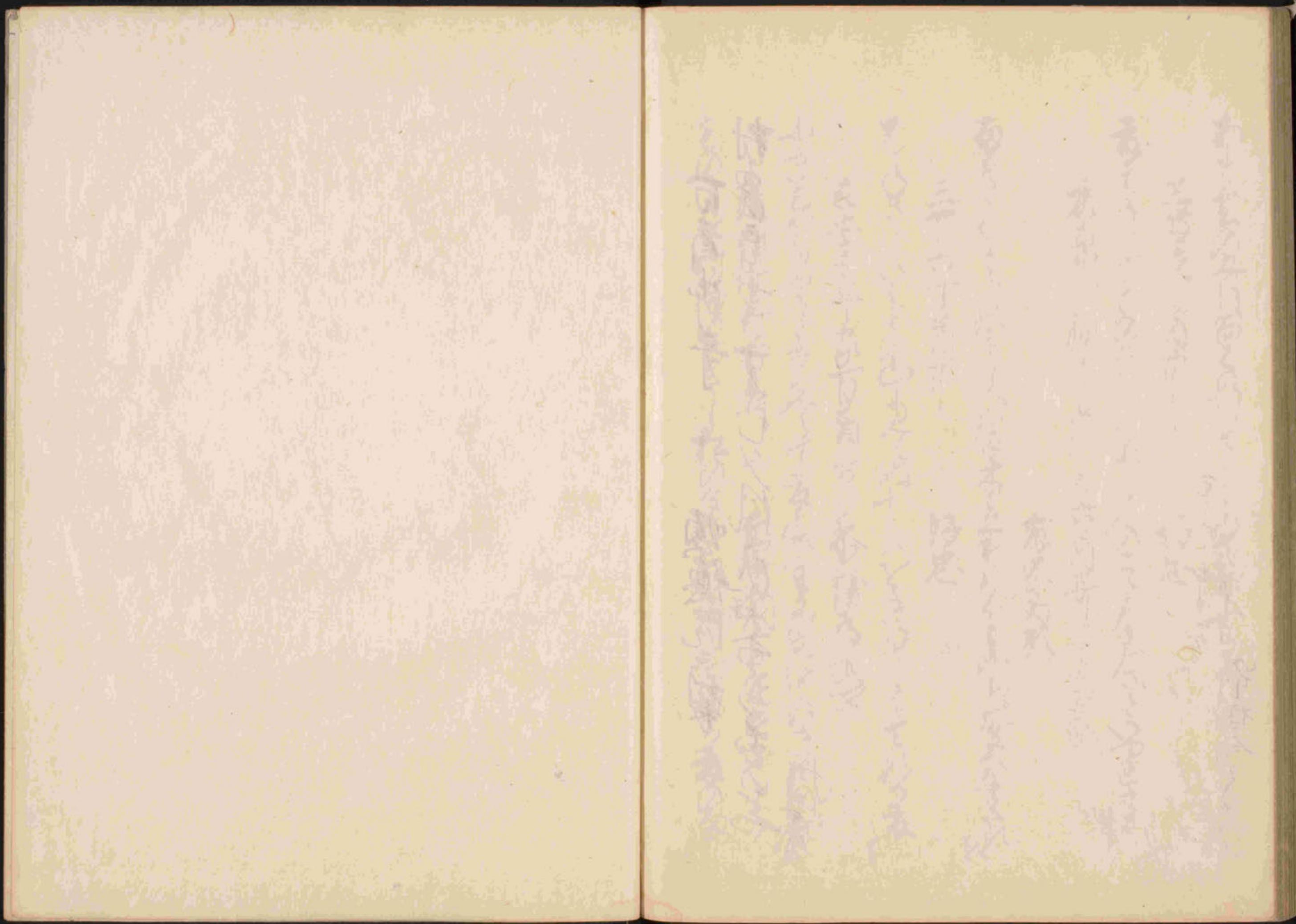
こととにはあわてねのうとくすまむ

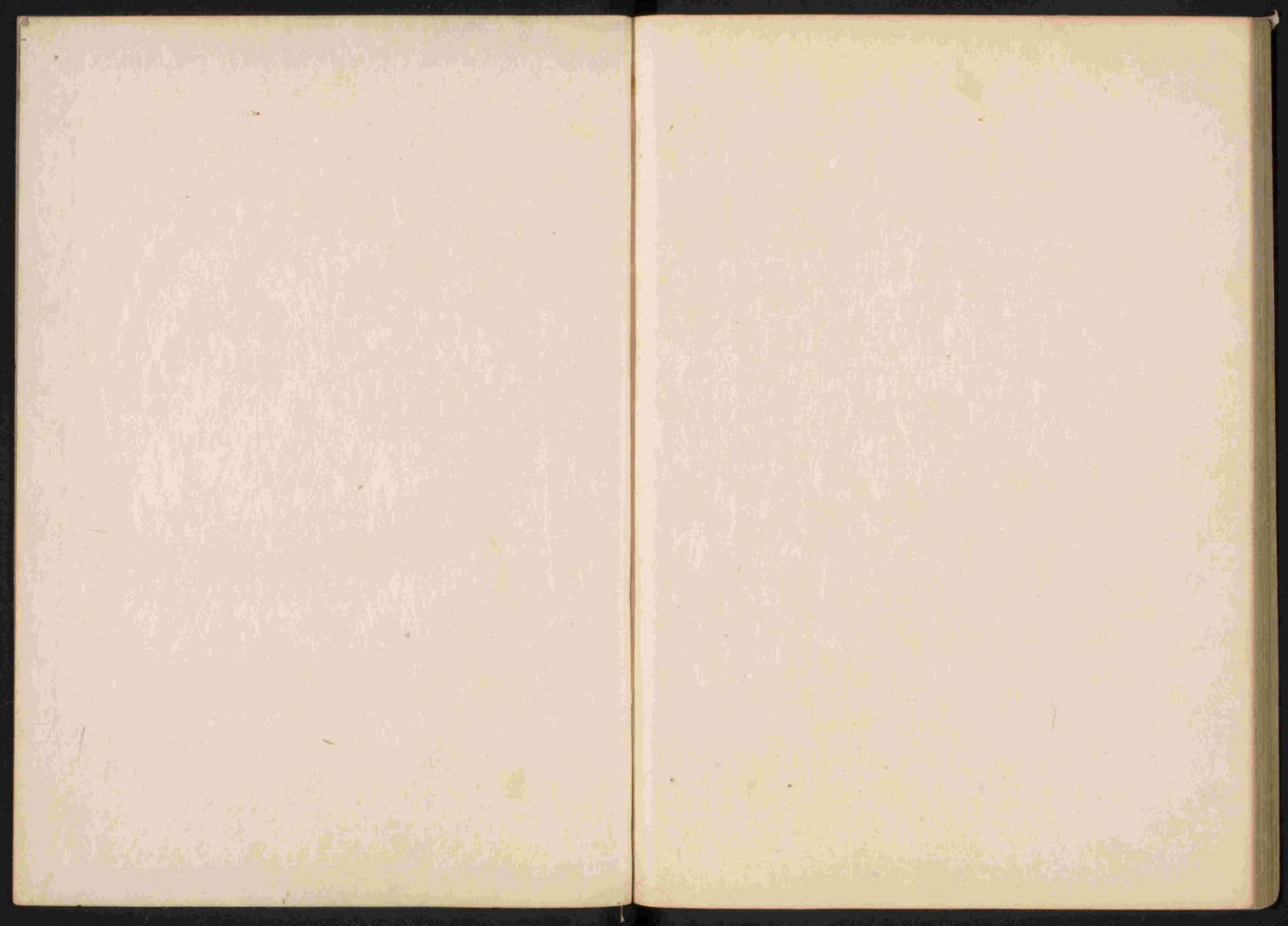
百首御哥

順徳院を製

村家のまよすまし父兄よひもうちう生のと

多幸







| |
|------|
| 110X |
| 495 |
| 21 |